

議事録

第3回 被災した子どもの居場所づくり検討委員会

日付 2024年3月13日

時刻 18:00 ~ 19:30

会議の開会宣言者 澤田 啓輔（一般社団法人 ガチャック）

出席者

中川 健（NPO法人場づくりネット） / 堀田 晶（古本なるや） / 有岡 仁志（一般社団法人 ガチャック） / 瀬川 恭平（一般社団法人 ガチャック） / 澤田 啓輔（一般社団法人 ガチャック） /

報告

澤田 啓輔（一般社団法人 ガチャック）より

- 富山県内において、様々な居場所活動をしている団体「一般社団法人 PONTE とやま」（<https://ponte-toyama.com/>）と連携。
被災地の支援者から「被災者の相談対応をしてくれる機関が無い」との報告を受け、支援者たちのネットワークを活かし、インフォーマルな相談組織をつくり、相談を受け付けることになった。
- 富山に拠点を置く食糧支援団体「NPO法人 フードバンクとやま」（<http://foodbank-toyama.com/>）と連携し、被災地の状況報告、及び被災地の支援団体と繋いでいただくこととなった。

堀田 晶（古本なるや）より

- 伏木地区より、学生宅が被災によって損壊。部活動をしていたが、被災した自宅の片付けがある為、部活に出席できないと部の顧問に伝えたが「甘えるな」と罵られ、部活への参加を強要された為、部活を辞めざるを得ない状況になった。
大会が近かったため、大会前に部活を抜けたことで、他の部員と軋轢も生まれ、居場所を失い、学校に行けなくなっているという話があった。
- 伏木地区より、被災した家屋の解体が始まっており、子どもたちが騒音を嫌い、解体音の無い友達の家に集まっている。いつまでも他人の家に居続けるというのも問題になる可能性がある。

検討

① 被災した子どもの居場所について

伏木地区の話を知り、居場所を失っている子どもたちがいることがわかる。当初はオンラインでの居場所を検討していたが、優先順位として

- オフラインの居場所
- オンラインの居場所

とするべきだと判断される。

② オフラインの居場所とは何か

サードプレイス（1989年 都市社会学者レイ・オルデンバーグが提唱）という概念がある。自宅、学校、職場とは別に存在する、居心地のいい居場所のことで、この概念を元に、被災した子どもたちが集まれる場を作っていくことが、今求められていると考えている。

このサードプレイスは、その子どもたちにとって居心地の良いものであれば、カフェや、それこそ古本屋であってもなり得るものと言える。

「被災した子どもの居場所」として、各地域にこのサードプレイスを生み出し、被災した子どもの居場所としての受け皿としていきたい。

③ オンラインの居場所について

オンラインの居場所は一旦保留とし、オフラインの居場所について議論を行いたい。その為にも、現地の支援団体などから「被災した子どもの現状」を確認することとしたい。

次回の会議

2024年3月20日